

各部会報告および今後の部会編成について

27年度 豊明市障害者地域自立支援協議会

個別の課題解決

地域課題の共有・解決

担当者会議

- ・月1回開催
- ・相談支援状況の確認
- ・困難事例の対応
- ・関係機関との連絡調整
- メンバー
- ・フィット
- ・社会福祉課・児童福祉課
- ・指定特定相談支援事業所
- ・指定障害児相談支援事業所

地域自立支援協議会

- ・年1・2回開催
- ・地域課題の共有・提言
- ・専門部会設置に関する検討
- ・地域課題解決のための協力体制の構築

報告

報告

運営調整会議

- ・月1回開催
- ・専門部会・自立支援協議会の議題・内容の検討
- メンバー
- ・相談支援アドバイザー
- ・フィット
- ・社会福祉課・児童福祉課
- ・各専門部会長 など

提案

専門部会

- ◆ 療育支援部会
- ◆ 相談支援部会
- ◆ そだつ部会
- ◆ 地域生活支援部会
(新設)

報告

個別支援会議

- ・随時開催
- ・個別事例にあわせ参加者を招集
- ・関係者間の支援目標の共有・役割分担
- ・個別事例から地域課題の把握。

運営の相談

○協議会が指定する事項の調査・研究

○地域課題の具体的解決方針の検討

相談支援部会 報告

平成 27 年度の相談支援部会では、①障がい福祉サービスを利用されている方が 65 歳となり介護保険サービス利用へ移行する際の支援について②就労継続支援 B 型事業所利用時の就労アセスメント実施の在り方について、関係機関とも連携し検討を行った。障がい者のサービス等利用計画作成の目途が立ったこともあり、相談支援部会は一旦終了し、必要に応じ相談支援部会の再開を検討していきたい。今後は相談支援担当者会議を利用し実際のケース支援の状況や制度の動向を確認していく。

実施概要

第 1 回 日時:平成 27 年 4 月 13 日(金)15 時から 16 時半

1. 計画未作成者についての確認。
2. 新規相談の受付について確認
3. 各事業所の相談体制と課題の共有
4. 今年度の取り組みについて
 - ・障がい福祉サービスから介護保険へのつなぎについて
 - ・児から者への相談事業のつなぎについて

第 2 回 日時:平成 27 年 5 月 18 日(月)15 時から 17 時

1. 障がい福祉サービスから介護保険へのつなぎについて
65 歳到達時に原則介護保険が優先となるが、一律に移行していくのではなく、個別に対応していくことを確認。また、65 歳到達前に説明の文章を郵送していく。

第 3 回 日時:平成 27 年 7 月 31 日(金)10 時から 11 時半

1. 就労継続支援 B 型利用にかかる就労アセスメントについて
B 型事業所利用に関して原則は就労アセスメントを通して支給決定し、セルフプランは極力なくしていき、相談支援が担当する。就労移行支援事業所については利用者が選択できるように、近隣事業所へも受け入れの確認をしていく。その後、就労移行支援事業所と就労継続 B 型事業所とともに就労アセスメントの実施について確認していくこととなる。
2. 就労継続支援 A 型事業所における暫定支給決定の取り扱いについて
就労継続支援 A 型について、10 月以降の利用は暫定支給決定から始まることを確認。事業所を変更する際には計画書、受給者証を提出し再度暫定支給決定を受けることとなる。

豊明市ケアマネ連絡会へ参加 日時:平成 27 年 8 月 19 日(水)14 時～15 時

障害福祉サービス・制度移行について説明し、情報共有を図る。実際のケースが少ないため、事例を重ねて検討していくこととなる。

第 4 回 日時:平成 27 年 8 月 17 日(月)15 時から 16 時半

1. 就労継続支援 B 型利用時の就労アセスメントについて
近隣の移行支援事業所の受け入れ状況を確認。実績はあまりないが相談は可能と。実施機関やアセスメントシートは各事業所により作成されている。市独自のアセスメントシート作成を

検討することについては、実施していく中で必要であれば検討。10月下旬に市内の就労移行支援、就労継続支援事業所にも参加いただき確認することとなる。

第5回 日時:平成27年9月14日(月)15時から16時半

1. 就労継続支援B型利用にかかわる就労アセスメントについて

近隣市町村の実施状況にはばらつきがあることを報告。就労アセスメントの目的は就労面での課題を明らかにして行くことであり、そこには専門性が求められることを確認。ただ、就労アセスメントの実施がサービス利用の障壁とならないかという懸念も残るため、対象となるケース共有をしていくこととする。

2. 介護保険制度への移行について

ケアマネ連絡会参加の報告をする。具体的なケースが少ないこともあり、担当者会議の際に64歳到達したケースについて相談支援事業所担当者会議で検討して行くこととする。

就労支援に関する連絡会 日時:平成27年10月16日(金)14時から16時

相談支援部会員、就労支援センターあびっと、メイツ、ハーミット、むぎの花の代表者に参加いただき就労アセスメントの実施に向けての確認と各事業所での利用相談や体験の現状について意見交換を行う。(アレイル欠席)

第6回 日時:平成27年10月19日(月)15時から15時半

就労支援に関する連絡会の振り返りを行う。

第7回 日時:平成27年11月16日(月)15時から16時半

1. 今後の相談支援部会について

これまでの経過を振り返り、テーマごとに検討を重ねてきたことを確認する。児童の相談や地域移行・地域定着相談について、また相談員の人員不足などの課題を確認し、次回に相談支援体制について現状を見ていくこととなる。

第8回 日時:平成27年12月14日(月)15時から17時

1. 児童福祉課職員より障がい児の計画作成を進めていく必要があると説明がある。来年度に児の指定を受ける相談事業所が1ヶ所増えるため、そこを含めた3事業所でまずは考えていくが社協相談、藤田メンタル相談所も児の指定を受けることを検討して欲しい。

2. 各事業所の現状について確認。計画作成の報酬だけでは人員の維持が難しい。職員が兼務で相談支援を行っている現状もある。児童の計画相談や地域移行・地域定着相談と相談体制を整備していくには運営面で厳しい状況である。

第9回 日時:平成27年1月19日(月)15時から16時半

今後の相談支援部会について協議を行う。相談支援事業所担当者会議でも情報共有がなされており、当初に掲げていた目標である障がい者のサービス等計画相談作成についてはほぼ達成されている。このため、今後の取り組みについては相談支援事業所の代表者会を開催し協議を行い、必要に応じて相談支援部会の開催を検討する方向で合意する。

そだつ部会 報告

豊明市障害者地域自立支援協議会の部会として、共通の課題である人材育成・確保について取り組んでいくため、平成26年度から「そだつ部会」を新設しており、今年度は5月に総会を行い取り組み内容の確認をしたうえで「研修会」と「福祉のお仕事見学会」を実行委員形式で実施した。また、2月の総会では振り返りと来年度の活動予定について検討した。

1 研修会

1. 趣旨

事業所職員全体の資質向上と、離職予防に役立てるため、実際に学びたいと感じている身近なテーマをもとに研修会を開催する。スタッフとして企画に携わることで自身のモチベーションも維持していく。

2. 今年度の研修会

月日/場所	テーマ	内容	参加者
9月2日(水) 13:30~15:30 総合福祉会館	豊明市の 社会資源について ～顔のみえる関係を～	・壽川 恵子氏 説明 (ボランティアセンターについて) ・事業所自己紹介 ・名刺交換会	23名 実行委員4名
10月29日(木) 13:30~15:30 桶狭間病院	離職防止のための ストレスケア ～認知行動療法を基本に～	・蔦嶋枝里子氏 講義 (桶狭間病院藤田こころケアセンター 臨床心理士) ・グループワーク	27名 実行委員6名
12月16日(水) 13:30~15:00 総合福祉会館	障害者虐待防止法と権利擁護 ～今年も学び考えよう～	・高森裕司氏 講義 (名古屋南部法律事務所 弁護士)	30名 実行委員4名
1月26日(火) 13:30~15:30 総合福祉会館	みんなで考えよう 統合失調症 ～早い気づきとより良い予後 のために～	・森脇正詞氏 講義 (藤田メンタルサテライト徳重北院長) ・池戸悦子氏 助言 (藤田メンタルサテライト相談室部長)	30名 実行委員4名

3. 今年度工夫した主なことから

- ・事業所間の横のつながりや情報交換会を行い、連携しやすくなる顔のみえる関係づくりに役立てた。
- ・ステップアップできるような流れの研修が出来るという実行委員からの意見をもとに、「障害者虐待防止と権利擁護について」という昨年度と同じテーマで、専門性の異なる講師による研修を行った。
- ・離職予防という観点から、自身の考え方のくせやストレスケアについて具体的に学ぶ機会をもった。
- ・精神障がいをもつ方への対応に苦慮することが多いという意見のもと、医師による正しい知識を得られる機会をもった。

4. 効果

- ・研修会毎に参加者アンケートを実施しており、約8割が「とても参考になった」「参考になった」と回答されている。
- ・実行委員からは、他の事業所職員と同じテーマで深く考えることができ、意見を交換し研修企画することで、お互いの考えがわかり信頼が増し、連携しやすくなったと感じるという意見が多かった。

5. 来年度について

- ・離職防止に役立てるよう、差別解消法をふまえて必要なことや取り組むことを考える、障害のある人の地域生活を支えるための勉強会 などの内容で、年間3回の研修会を開催予定。

2 福祉のお仕事見学会

1. 趣旨

職員やボランティア、実習生などの人材確保につなげていけるよう、福祉の仕事に関心のある方に市内の事業所を実際に見学し、事業所について知るとともに直接の雰囲気を感じてもらう。事業所職員は、自分の仕事について説明をしたり、企画運営をしたりすることで自分の仕事について見つめなおし、今後役に立てられるようにする。

2. 主な日程

月 日	出来事	主な内容	出席
7月10日(金)	第1回実行委員会	・昨年振り返り ・今年度の取り組み 目的、方針、開催日、内容、周知 ・今後のスケジュール	実行委員8名
8月4日(火)	第2回実行委員会	・見学事業所、交流会検討 ・当日の流れ、役割分担 ・周知方法	実行委員10名
9月下旬～	広報開始	・チラシ配布(公所、学校等) ・広報とよあけ、CC-net等	
11月12日(木)	第3回実行委員会	・当日進行、役割分担再確認	実行委員9名
11月28日(土)	見学会 (10時～14時30分)	名鉄前後駅集合⇒(株)ALEILE見学⇒ 障害者支援施設ゆたか苑見学⇒夢♡ パレット交流会⇒前後駅解散	参加者11名 (学生3、一般8) 実行委員11名 <u>合計22名</u>
12月17日(木)	第4回実行委員会	・見学会振り返り	実行委員9名

3. 今年度工夫した主なことから

- ・学生や転職希望者が参加しやすいよう土曜開催とした。大学、専門学校、高校などへも周知をした。
- ・昼食を兼ねた交流会を行った。

4. 効果

- ・参加者のうち、4名がボランティアの希望があり、2事業所に直接連絡が入った。また、学生3名も将来福祉の仕事をしていきたいとアンケートにて回答されている。
- ・実行委員からは、他の事業所と協力して企画することでお互いを分かり合え、今後声をかけやすく連携しやすくなったと感じるという意見が多い。

5. 来年度

- ・学生が参加しやすいような時期に見学会を開催できるよう調整していきたい。

地域生活支援部会 報告

1. 趣旨

市の実情にあった地域生活支援について、当事者の方やご家族の意向・意見をいただき、施設関係者等を交えて協議し、役割分担と効果的な連携体制について確認しながら、国が示している地域生活拠点等を一緒に作り上げていくために開催。（平成27年度新設）

2. 今年度の活動

第1回 部会

日 時： 平成28年1月21日（木）午前10時～12時

出席者： 18名

当事者 2名

当事者・家族の会 豊明市身体障害福祉協会

豊明家族会

豊明市手をつなぐ育成会、

豊明肢体不自由児（者）父母きょうだいの会スマイルクラブ

事業所 社会福祉法人福田会 障害者支援施設ゆたか苑

医療法人静心会 藤田メンタル相談支援事業所

社会福祉法人豊明福祉会 ファイン相談支援事業所

特定非営利活動法人えんとかく てかぼ

豊明市社会福祉協議会 豊明市社協相談支援事業所

豊明市社会福祉協議会

事務局 豊明市役所健康福祉局社会福祉課

豊明市障がい者基幹相談支援センターフィット

議 題： 本会についての説明

自己紹介

豊明市の現状について

グループワーク

内 容： 本市は、3障がいに対応する支援機関が揃っており徐々に支援体制も整いつつある。また、第4期豊明市障害福祉計画策定時のアンケートによれば、ご本人の年齢は30歳代から50歳代が多く、主な介助者は60歳以上が全体の52.5%となっており、10年後にはどちらもさらに高齢化することが見込まれる。

このことをふまえて、地域生活拠点等をつくりあげていくために、緊急時の受入れ、短期入所、居住の場での支援、日中活動の場、相談支援などについて、市の現状と課題について出席者同志で意見交換を行った。

3. 今後について

今年度末までに、第1回部会出席者が所属する団体や事業所ごとにさらに意見を出していただき、来年度は部会参加者を広げて具体策について検討する予定である。さらにその翌年には具体策を実施できるよう取り組んでいきたい。

療育支援部会(障がい児に関する部会と会議等) 報告

◆療育支援部会(障がい児相談連絡会と合同開催)

開催日時等	主な内容
平成28年2月19日(金)10:00～11:30 会場:シルバー人材センター2F	市内の療育支援を知る(障害児通所支援事業所の紹介) サポートブックの報告 グループワーク 参加者:25名

◆障がい児相談連絡会(第2回は療育支援部会と合同開催)

開催日時等	主な内容
第1回 平成27年6月17日(水)14:00～16:00 会場:豊明市役所 会議室9	情報交換・情報共有 ・連絡会開催の主旨 ・委託相談支援事業の現状把握 ・指定障害児相談支援事業所の現状把握 参加者:6名
第2回 平成28年2月19日(金)10:00～12:30 会場:シルバー人材センター2F	市内の療育支援を知る(障害児通所支援事業所の紹介) サポートブックの報告 グループワーク 情報交換会 参加者:25名

◆サポートブック作成のためのワーキング会議

開催日時等	主な内容
第10回(平成26年度からの続き) 平成27年4月24日(金)13:30～15:30 会場:シルバー人材センター2F	ワーキング会議メンバーの紹介 前年度の振り返り サポートブック目的確認 等
第11回 平成27年5月11日(月)13:00～15:00 会場:シルバー人材センター2F	第10回の振り返り コーディネーターとの情報交換の報告 サポートブックの内容について
第12回 平成27年5月22日(金)13:00～15:00 会場:シルバー人材センター2F	第11回の振り返り サポートブックの内容について
第13回 平成27年7月10日(金)13:00～15:00 会場:シルバー人材センター2F	第12回の振り返り サポートブックの役割について
第14回 平成27年7月10日(金)13:00～15:00 会場:シルバー人材センター2F	第13回の振り返り サポートブックの役割について
第15回 平成27年8月27日(木)10:00～11:30 会場:シルバー人材センター2F	教育委員会との情報交換に関する報告 サポートブックの内容について 今後のスケジュール確認
第16回 平成27年9月28日(月)13:00～15:00 会場:シルバー人材センター2F	サポートブックの内容について 今後のスケジュール確認 課題や問題点のあらい出し
第17回 平成27年10月28日(水) 会場:シルバー人材センター2F	サポートブック名を『ひまわりブック』『たんぽぽノート』とする 『ひまわりブック』の内容について 『たんぽぽノート』について

第18回 平成27年11月27日(金)13:30～15:00 会場:シルバー人材センター2F	『ひまわりブック』『たんぼぼノート』内容校正について 校長会、幹部会での報告
第19回 平成27年12月21日(月)13:30～15:00 会場:シルバー人材センター2F	第18回の振り返り 『ひまわりブック』『たんぼぼノート』の利用マニュアルについて 『ひまわりブック』モニタリングの状況について 「発達障害を巡る現在社会シンポジウム」に参加しての研修復命
第20回 平成28年1月27日(水)13:30～15:00 会場:シルバー人材センター2F	『ひまわりブック』『ひまわりブック別冊』『たんぼぼノート1』『たんぼぼノート2』の内容検討 『ひまわりブック』モニタリングについて アンケート報告
第21回 平成28年2月24日(水)15:00～16:30 会場:どんぐり学園	第20回の振り返り Q&Aの作成提案(取り扱い運用、説明書) 今後のスケジュールの確認
第22回 平成28年3月11日(金)13:30～	第21回振り返り 平成28年度以降の予定確認

※サポートブック作成のためのワーキング会議 まとめ

- 1、ステージが変わる度に同じ話を繰り返さなくてはならない(保育園→小学校、担任の先生の変更、福祉サービス事業所の利用等)という保護者の声があり、途切れることのない支援ツールとしてサポートブック作成のプロジェクトチームとしてワーキング会議開催へとつながる。
ご本人のことをより理解しながら、関係者、関係機関等が同じ情報を共有していくツールとしての役割が果たせるように研究、検討しながら平成26年度から療育支援部会の下部組織としてワーキング会議を繰り返し開催。
- 2、サポートブックとして『ひまわりブック』『ひまわりブック別冊』『たんぼぼノート1』『たんぼぼノート2』4種類を作成。
- 3、サポートブック配布対象児及び家族は
『ひまわりブック』は障がい受容ができています方で利用を相談された方に配布していく。
『ひまわりブック別冊』は発達障がいに関する参考資料。
『たんぼぼノート1』は乳幼児期の方が対象。障がい受容がまだであり、気付きや子どもの発達過程を振り返る為のもの。
『たんぼぼノート2』は小中学生が対象。ねらいは『たんぼぼノート1』と同様。
- 4、上記4冊についての「Q&A」を作成中。4冊の違い(ねらい、対象者等)を現場で理解し、より活用していただき渡した(紹介した)側と渡された(紹介された)側とのトラブルを防ぐために作成。
- 5、『ひまわりブック』は来年度の予算で製本化していく。
- 6、4冊ともいずれは市のホームページからダウンロードできるようにしていく。

※今後について

- ・ワーキング会議は存続させて利用状況等を把握していく。
作るだけでなく、いかに利用してもらえるかが大切なため、研究、検討を重ねていく。

豊明市版サポートブック「ひまわりブック」等について

1 ねらい

この「ひまわりブック」は、学校や保育園等などの集団生活の場において、集団に馴染めない、言動に偏りが見受けられる、積極的な取り組みをしているにもかかわらず学習の成果が現れていないなど、発達障がいを疑う子どもたちとそのご家族を支援するための情報共有ツールです。

とりわけ、発達につまずいているお子さんにおいても、途切れることのない、周りからの支援が求められるのは言うまでもありません。

集団生活で困っている子どもと保護者に寄り添いながら、支援するための第一歩は、まず情報共有です。

「ひまわりブック」は保護者が主体的に記入し、活用されていくことを期待する媒体です。

2 配布物と配布対象者（初年度配布予定数 計 約 300 冊）

- * 原則保護者が希望した場合に配布活用します。
 - * 子どもの対象年齢は、概ね3歳から15歳です。
- ・ひまわりブック：すでに診断名が確定しているお子さんや、情報共有したいと保護者から申し出があった場合、たんぽぽノートを経て配布希望があった場合等。
 - ・ひまわりブック（別冊）：発達障がいの情報を簡単に掲載しています。
 - ・たんぽぽノート1（乳幼児編）：就学前児童対象の内容です。
※個人懇談の場面など保護者から相談があった場合に、話題のひとつや話し合いのきっかけづくりとしていただけて、比較的《診断》の要素が薄い内容となっています。
 - ・たんぽぽノート2（小中学生編）：就学後中学校卒業までの内容です。
※個人懇談の場面など保護者から相談があった場合に、話題のひとつや話し合いのきっかけづくりとしていただけて、比較的《診断》の要素が薄い内容となっています。
また、学校生活においては、社会生活プラス学習という要素の中で保護者と学校側との捉え方の違いがある場合にもご活用いただけるかと思えます。

3 活用していただける場面

保護者と学校、保育園担当者が、「たんぽぽノート」の内容（発達のチェック項目）を子どもの現状と照らしあわせ、確認します。

そこで、保護者への気づきを促す機会が期待でき、次の支援のステップへと繋げていく、好機のひとつと捉えていただければと思います。

4 スケジュール(予定)

平成28年4月中旬配布予定： 手刷りのものです。(ひまわりブック以外)

5月下旬配布予定： ひまわりブック（製本分）

5 その他

・すでに診断名がついている児童、どんぐり学園園児、特別支援級等に所属する生徒の保護者については、積極的に「ひまわりブック」を配布していきます。

・平成29年度からは、市のホームページに「ひまわりブック」等をアップし、必要時、紙ベースにおとし活用していただく予定です。

28年度 豊明市障害者地域自立支援協議会(案)

資料 2-7

個別の課題解決・抽出

地域課題の共有・解決

地域自立支援協議会

- ・年1・2回開催
- ・地域課題の共有・提言
- ・専門部会設置に関する検討
- ・地域課題解決のための協力体制の構築
- ・障害者差別の解消に関する検討

担当者会議

- ・月1回開催(内年4回は事業所の代表者を開催)
 - ・地域課題の共有
 - ・相談支援状況の確認
 - ・困難事例の対応
 - ・関係機関との連絡調整
- メンバー
フィット、社会福祉課・児童福祉課、指定特定相談支援事業所、指定障害児相談支援事業所

提案

運営調整会議

- ・年4回程度開催
 - ・専門部会・自立支援協議会の議題・内容の検討
- メンバー
・相談支援アドバイザー
・フィット
・社会福祉課・児童福祉課
・各専門部会長 など

報告

報告

専門部会

- ◆ 療育支援部会
- ◆ そだつ部会
- ◆ 地域生活支援部会

- 協議会が指定する事項の調査・研究
- 地域課題の具体的解決方針の検討

個別支援会議

- ・個別事例から地域課題の把握
- ・随時又はサービス担当者会議として開催
- ・個別事例にあわせ参加者を招集
- ・関係者間の支援目標の共有・役割分担

報告

運営の相談